

通信



あむーる



編集： 八幡成人（やわたしげと）

「チーム八ちゃん」ホームページ: <https://teamhacchan.wordpress.com/>

6月第4号

▶松江北高に英語の教育実習に来ていた小川歩未（おがわあゆみ）さんに、北高生にも人気の同志社大学について紹介文を書いてもらいました。彼女も書いてくれています、大学は学びに行くところです。遊びに行くところではありません。ここら辺を勘違いしている学生は、いざ就職という段になると、自分の甘さを反省することになります。

同志社大学

文学部英文学科4回生

おがわあゆみ
小川歩未

◆はじめに

こんにちは！2017年度に松江北高校を卒業した、小川歩未と申します。今回は、私自身の大学生活を基に、同志社大学について詳しくお話しようと思いますので、ぜひ最後まで読んでください。



◆同志社大学とは

俗に「関関同立」と呼ばれる近畿地方私立大学群の1つであり、京都府内にキャンパスがあります。新島 襄が設立した同志社英学校を前身としたキリスト教主義の大学…等の公式説明はHPから探して読んでみてください。学生視点から説明すると、「煉瓦造りのオシャレな建物（一部は重要文化財）が自慢の、学生数がとても多い大学」といった印象でしょうか。総合大学なので多種多様な学問に携わる学生と交流でき、刺激に溢れた環境で生活しています。またキリスト教主義とは言え、学生の信仰を強いることは無いので安心してください。キリスト教に関する授業も、チャペル・アワー（礼拝形式のプログラム）も選

択式ですし、多文化理解の一種という認識で問題ないと思います。入学式で、説教や讚美歌が取り入れられている点は驚かれるかもしれませんが…。



◆英文学科について

まずは質問です。「英文学科」と聞いて真っ先に思い浮かぶ研究内容は何ですか？高校生当時の私は、志望校選びの際に真面目に調べるまで、「英文学科＝シェイクスピア」と思い込んでいました。実際に、シェイクスピアを中心とした英文学について学ぶ機会がありますが、それが全てではありません。同志社大学の場合、英文学科では、①英文学（英語で書かれた文学であれば国は問わない）②英語圏文化学 ③英語学 ④英語教育学の4領域で学ぶことができます。幅広いですね。つまり、学科名に踊らされる事無く、研究内容を見極めて志望大学を選ぶ必要があるという事です。1年次に全領域の基礎を学んだ上で、2・3年次で専攻を決定するのですが、ゼミ選択と同時なので、希望通りの専攻を得るには相応の努力が求められます。人気の専攻テーマ・教授の元で学ぶには、学内成績や小論文の提出が必須なので、1年次から先を見据えて努力すると良いでしょう。私の場合、英語教育学を希望して入学したものの、ゼミ担当の教授が2名のみだったので高倍率に苦勞しました。（面倒だからと、学習内容も鑑みず、成績・小論文が無いゼミを選択する学生も一部いるようですが勿体ないなあと感じてしまいます。）やはり、希望通りの研究ができると学生生活が充実するので、妥協せず頑張ってみてください。また、高校生のうちに専攻したいテーマが

決まっていな生徒さんは、選択肢を増やすためにも、幅広い領域に触れることができる学部・学科を選ぶと良いと思いますよ！

◆その他学習内容について

自分の学科にしか興味がない人・最小限の勉強にだけ取り組んで卒業したい人にとっては関係のない話ですが、同志社大学には多様な学習に取り組める環境が十分に揃っている事を強調したいです。教職課程は当然、「充実した留学制度」なんかはコロナ禍でさえなければ全国の大学が主張しているかと思いますが、個人的にお勧めしたいのは副専攻制度です。前述の通り総合大学なので、他学部・他学科の授業の大半は受講できますが、副専攻制度を利用すれば、他学部・他学科の3年次ゼミにも所属することができます。同じ学費で、ですよ！？私の場合は、個人的な興味関心に基づいて、国文学科を副専攻しているのですが、これがとても楽しい。他学科の生徒がどのような学び方をしているのか知ることができるのに加え、自分自身の視野が広がる感覚を得られるのは副専攻の醍醐味かと思っています。また、特に平安時代の文学を研究するにあたっては、同志社大学以上の環境は無いと断言できます。道路を挟んで向かい側に「京都御苑」があり、藤原定家の子孫である冷泉家のお屋敷がキャンパスに隣接しているのです。当時の生活に思いを馳せたり、最新の情報を得たりするのに最高の環境ですよ。国文学に興味がある皆さん、ぜひ同志社大学に来てください。（注：副専攻制度は所属学部によって詳細が異なるので、志望学部のHPを熟読してくださいね。）



◆大学生活全般について

一般的に、大学生活を「人生の夏休み」「モラトリアム」という言葉で表すことはご存知かと思います。実際の大学生活はと言えば、半分事実で半分嘘だと認識しています。大学や文理の違いにもよりますが、怠けようと思えばいくらでも怠けられるのが大学生です。時間割は自分で決められるし、最悪無断欠席しても誰にも咎められない。平日の昼間から友達と遊びに行くことだってできる。夢のような環境でしょう？一方で、学ぼうと思えばいくらでも学ぶ材料が得られるのも、大学生です。卒業必修単位数に囚われず、興味のある講義は全て出席し、学習プログラムを最大限活用し、学内外で開催される著名な先生方の講演会に参加する…などなど。同じ学費を払うなら、目一杯

学んだ方が有意義だと思いませんか？また、学びは大学内に限られた物ではないと思います。アルバイトやボランティア活動、インターンシップ等、学外にも学びのチャンスは溢れています。余すことなく吸収して、限りある大学生活を充実させてください。「どこで4年(もしくは6年)間を過ごせば成長できるか？」という観点から大学を選択するのも悪くないと思いますよ。

◆最後に

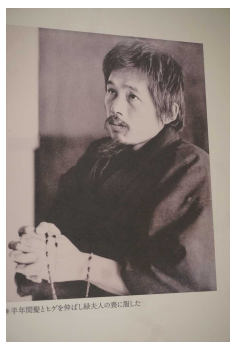
昨今のコロナ禍のせいで、高校生も大学生も思い通りの生活が送れない日々が続いていますね。特に都市部の大学では未だに**対面授業**が制限され、**同志社大学**は**オンライン授業**との併用を続けています。ただでさえ短い大学生活が、例年以上のスピ

ードで過ぎ去るようです。4回生の私にとっては、残り1年もない大学生活を、如何に充実させるかが今後の課題だと思っています。**就職活動**と**卒論**だけで終わらないように、今この瞬間何が学べるかを常に意識し、悔いの残らないようにしたいです。読者の皆さん、他人事じゃないですよ。目の前の勉強に精一杯取り組むのは当然の事として、部活動や仲間との交流等、今この瞬間だからこそできる活動にも全力で取り組んでください。机に向かう勉強だけでなく、日常生活で得られる学びも大事にしながら、悔いの残らない学生生活を送ってくださいね。何かに全力投球した経験は一生の糧となり、貴方の人生を支えてくれること間違いなしですよ！◆◆◆



●ぜひ行ってみて！

北高大先輩「永井 隆記念館」リニューアル！



爆心地から約700メートルしか離れていない**長崎医科大附属病院**で、自ら被爆しながらも、負傷者の救護に尽力し、平和を訴え続け、43歳の若さで白血病でお亡くなりになった、**松江北高**出身の偉大な大先輩**永井 隆(ながいたかし) 博士(1908～1951)**のふるさと、島根県雲南市の「**永井隆記念館**」が、このほどリニューアル・オープンしました。**永井 隆博士**の偉業を顕彰し、「**平和を**」の精神をこれからも繋いでいくために、現地で建て替え建設工事が三年間進められてきて、4月20日午前9時に、リニューアル・オープンしたのです(旧館よりも1.7倍広い)。映像や音声資料なども新たに追加され、**永井博士**の生涯と功績を、より詳しく知ることが出来るようになりました。背後の山の稜線にマッチして作られた素敵な建物でした。私は今日お邪魔してきました。



新しい記念館は平屋建て約580平方メートル。外観は、国道側から見た屋根が山の稜線に合うようにデザインされています。総事業費は**5億400万円**。敷地内駐車場の国道54号側には、**永井博士**の理念や平和への願いを伝えるモニュメント「**平和の鐘**」(高さ6メートル)



が、市民の寄付などで作られています。**永井隆博士**の住んだ長崎では、かつて原爆で被爆した**旧浦上天主堂**から毎日鐘の音が響きわたっていました。モニュメントの鐘を吊るす外側のアーチは、礼拝堂の室内のシルエットを表現し、鐘とアーチで「鐘楼」をイメージしています。中央のアーチの上半分は、「平和」の意思表示でもある指先を開く「ピース(V)サイン」を、下半分は文字の「人」を表現し、教会での祈りをイメージし、同時に英語の「Peace Sign」と日本語の「人」による多言語を含ませた混成造形としています。モニュメント全体を通して「**鐘楼で国を問わず人々が平和(Peace)を願う**」という意味を込めています。実に素敵なモニュメントが木次の青空に光り輝いていました。

展示室には、写真や自筆の書、著作など約160点があり、絵にも親しんだ**永井博士**が、病床から子どもたちに描いた絵はがきなども並んでいます。原爆で亡くなった妻の**緑**の所持品で、焼け跡から見つかったロザリオの複製は、長崎市の「**永井隆記念館**」に展示されている実物を、溶けた部分や色まで忠実に再現し、新たに加えました。涙を誘います。

顕彰図書室から外に出ると、「**だんだん庭園**」が広がっています。その一角には何やら見覚えのある小さな家屋が。そう、長崎の「**永井隆記念館**」に併設されている、博士が暮らしたとされる「**如己堂**」(にょこどう)です(博士のモットーは「**如己愛人**」)。現地の複製のようですが、長崎まで行く機会のない人たちにとっては、貴重な体験となります。コロナ禍で入館者が少なく、**藤原重信館長**さんからは、いろいろと貴重なお話を長時間伺うことができました。ありがとうございました。♥♥♥



▲北高時代の展示も各種ある